

山梨県高根町

# 石堂 B 遺跡

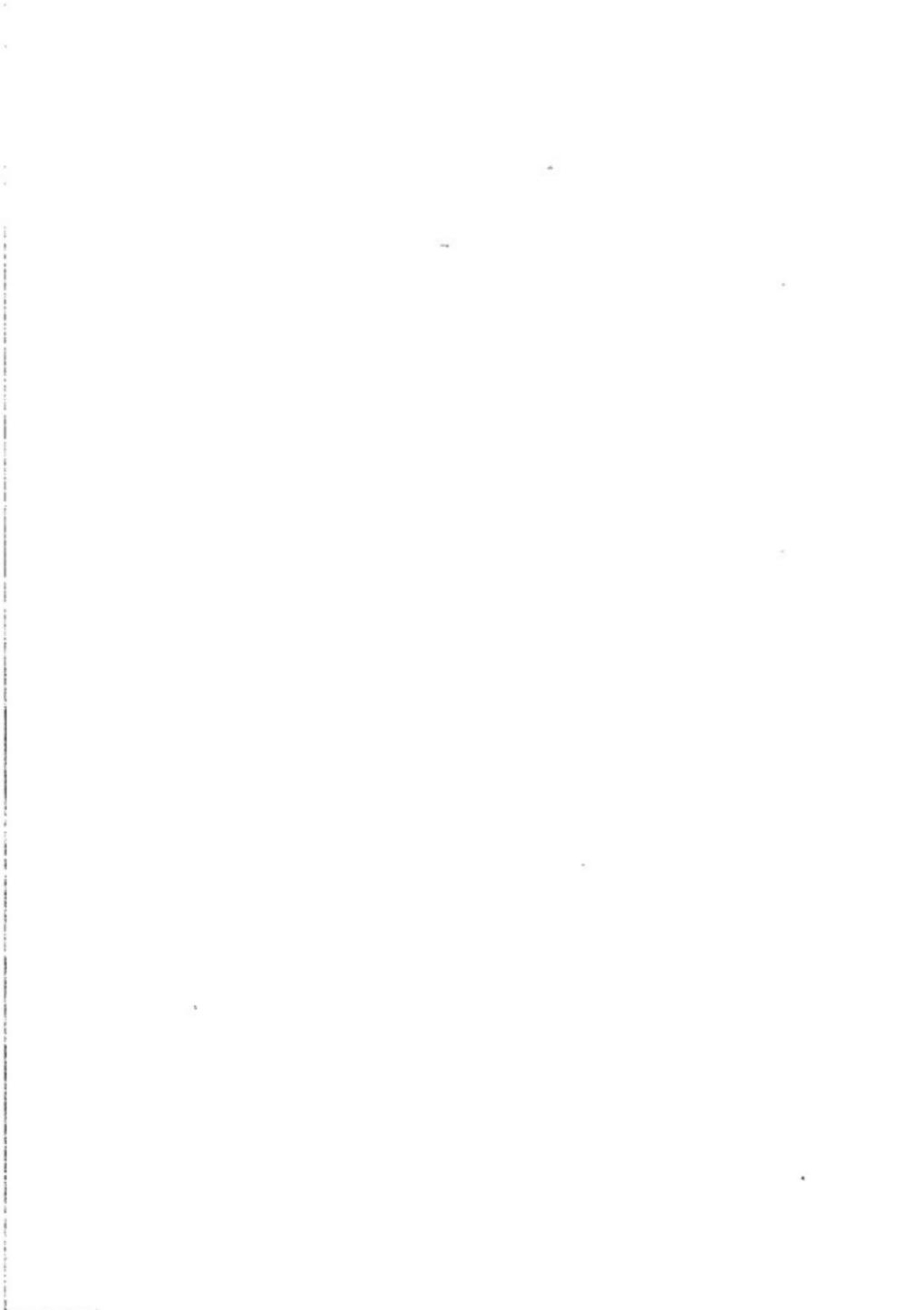
県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報

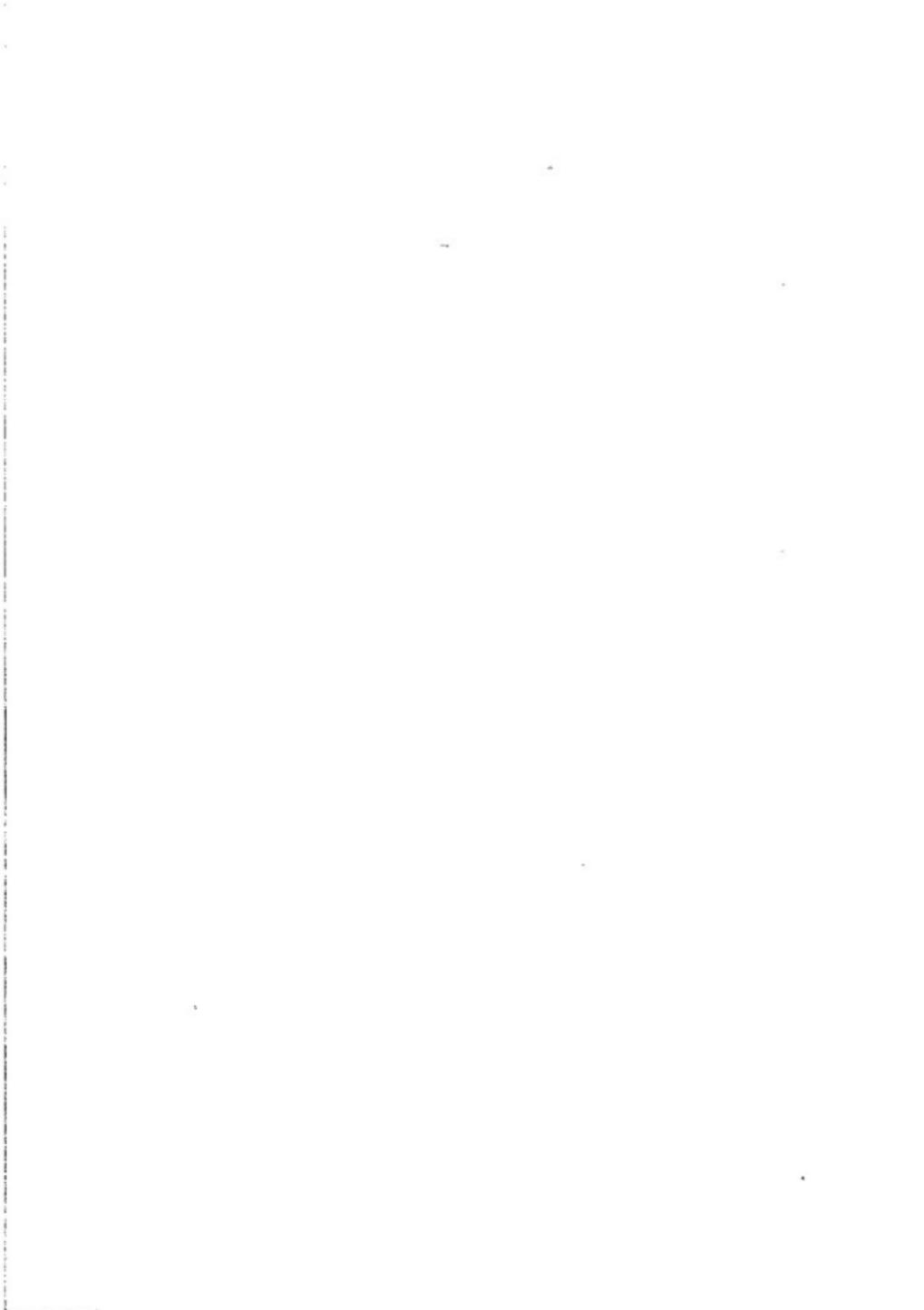
第二次調査

1987.3

高根町教育委員会

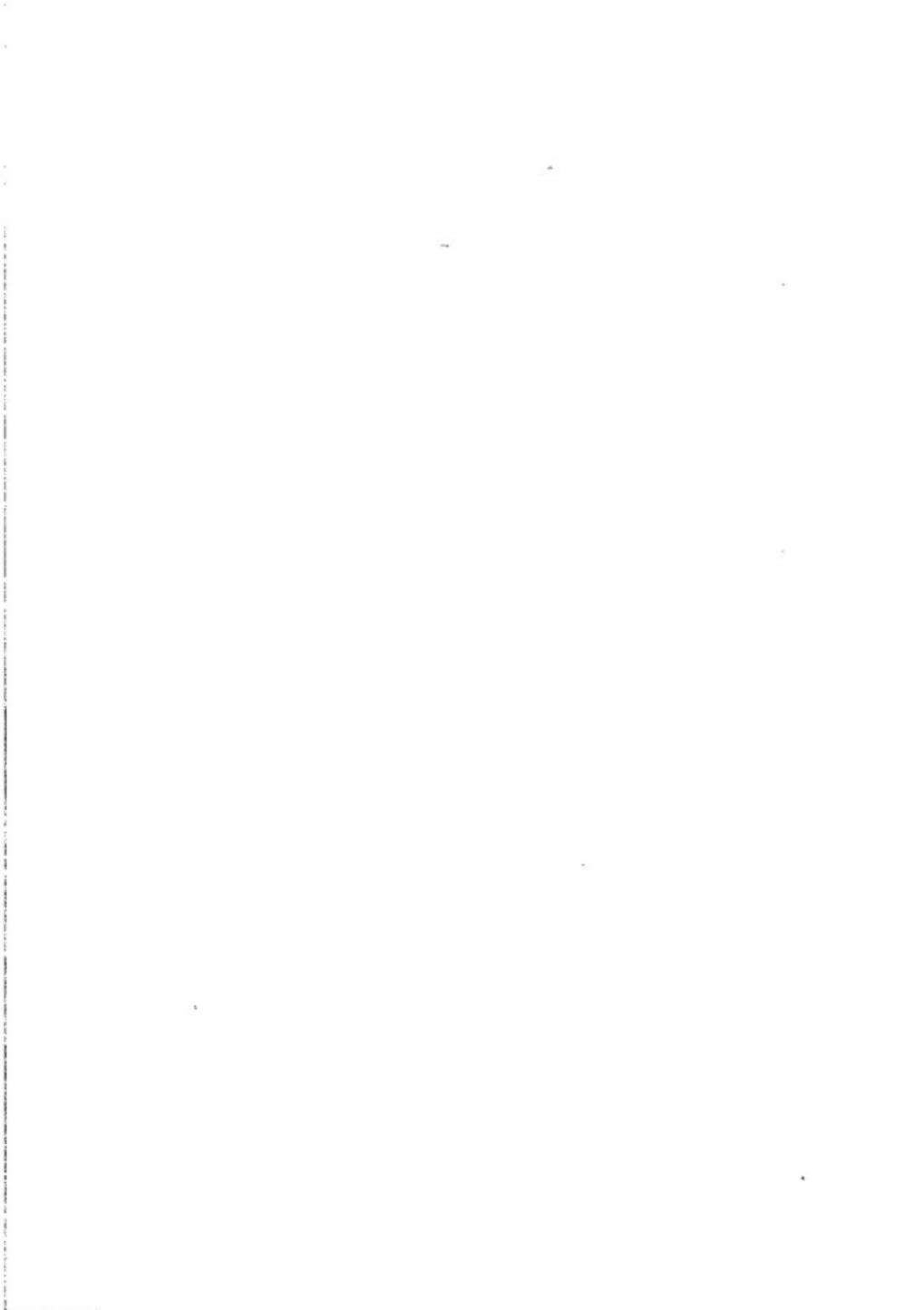
峡北土地改良事務所







第1図 石棺状遺構群航空写真



## 序 文

私たちが住んでいる高根町には、過去1万数千年前の旧石器時代から祖先が居住し、生活していたと伝えられており、祖先が残した生活の足跡は種々の発掘調査などにより立証され、一步一步その全貌が解明されつつあります。

高根町は山梨県の北西部に位置し、北には八ヶ岳が聳え、その南傾斜面に東西約9km、南北約21km、総面積64.58km<sup>2</sup>と南北に細長く、町の中心部は標高約720mの高原の町であります。

生産基盤は水田などの農業立町であり、昭和54年から其盤整備事業の一環として、圃場整備等を実施しております。

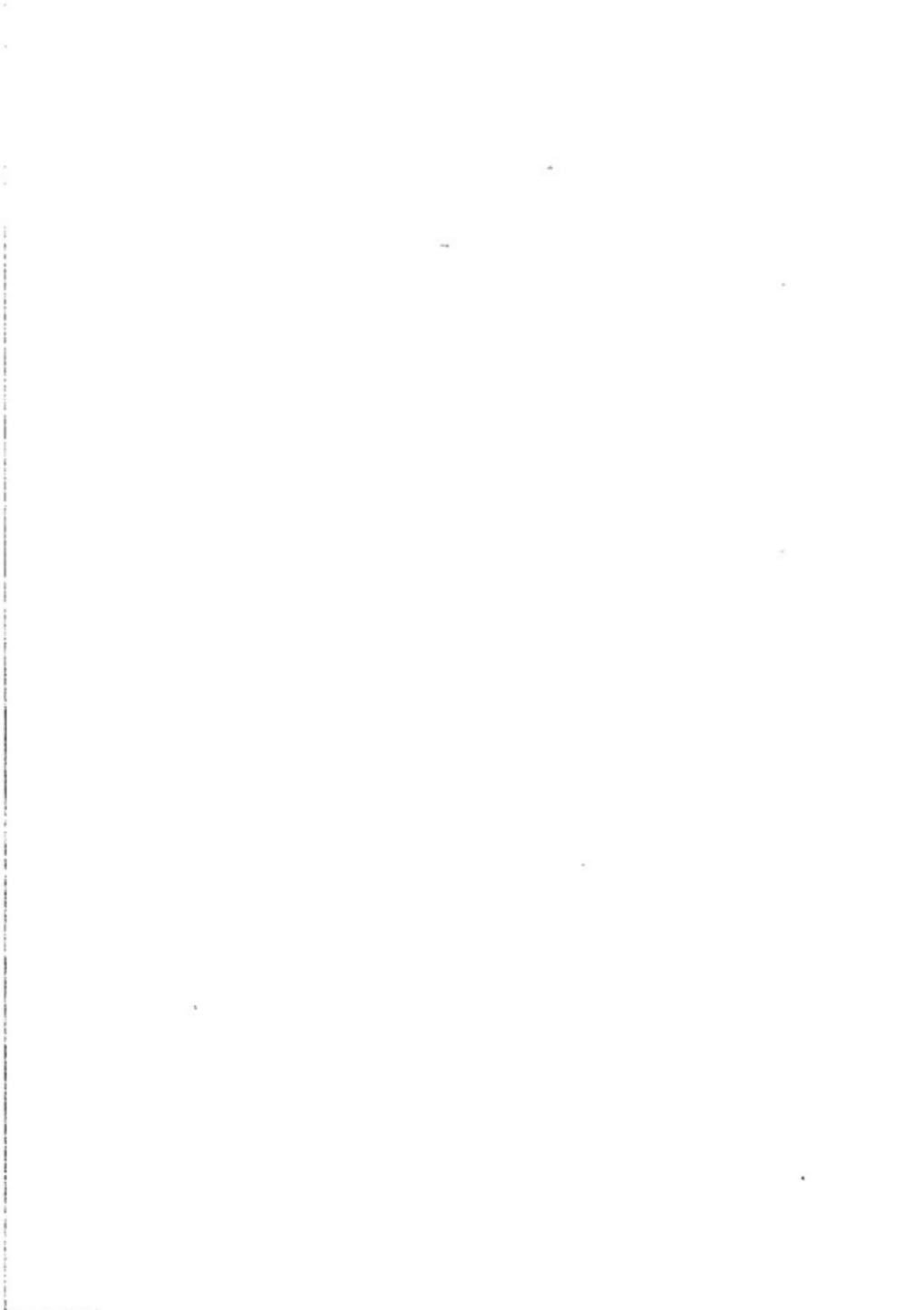
埋蔵文化財は、できうるかぎり現状で保存することが理想とされておりますが、やむなく開発を行う場合には発掘調査を実施し記録保存の措置を講じております。

なお、当遺跡は県農務部及び県文化課との協議の結果、掘削される部分を除き、埋土保存されることとなりました。農務部及び地権者の方々の御協力に対し、改めて深甚の敬意と謝意とを表します。概報ではありますが、学術資料としてはもとより、われわれの祖先の足跡を知る一助として、広く一般にも紹介され埋蔵文化財の保護、活用上何らかのお役に立てば幸甚です。最後に、調査にあたり御指導、御尽力いただきました、関係機関並びに関係者各位、また直接発掘調査に参加された方々にも厚く御礼申し上げます。

昭和62年3月31日

高根町教育委員会

教育長 中嶋新蔵



## 例　　言

1. 本書は、県営圃場整備事業に伴う石堂B遺跡の第二次調査の概報である。
2. 本調査は昭和60年度を第一次、昭和61年度を第二次調査とし、掘削されない部分は埋設保存された。
3. 本調査は、岐北土地改良事務所との負担協定及び、文化庁・山梨県より補助を受けて高根町教育委員会が実施した。
4. 本調査における記録・出土品は、高根町教育委員会が一括で保管している。
5. 発掘調査組織  
調査主体　高根町教育委員会教育長　中嶋新蔵  
調査担当　雨宮正樹  
調査事務局　社会教育係長　白倉民雄  
社会教育主事　原　一元  
主事　小尾善彦
6. 全測図・空中写真は、シン航空写真株式会社によるものである。
7. 発掘調査及び本書作成にあたって、次の諸先生方、諸機関より御指導・助言をいただいた。  
記して感謝申し上げる次第である。(順不同敬称略)  
新津健　末木健　萩原三雄　十菱駿武　山路恭之助　深沢裕三　山下孝司　柳原功一  
平野修　宮沢公雄　県文化課　県埋蔵文化財センター　岐北土地改良事務所
8. 発掘調査作業員(順不同敬称略)  
榎本勝　植松禪三　油井正久　内田誠一　佐藤法子　八巻栄　八巻久子　八巻智子  
田中恒子　植松むつよ　秋山なみ子　油井きくち　植松志げ子　浅川繁子　仲嶋まゆみ  
坂本たか子　原智里子　川端下圭子　大野千枝　奥水池鶴子　堤直子　中嶋桂　島和彦  
五味勇樹
9. 遺物整理作業員(順不同敬称略)  
榎本勝　堤直子　仲嶋まゆみ　浅川繁子　原智里子　坂本たか子　川端下圭子　八巻栄  
八巻久子　小林かおり　坂本芳美　川端下由美
10. 発掘調査および埋設保存にあたって文化庁文部技官岡本東三氏に御指導を賜わった。
11. 当遺跡において検出された遺構が特殊であるため、県文化課・県農務部耕地課・岐北土地改良事務所・町で協議を行った結果、第1段目の石棺状遺構群は埋土保存することが決まった。

## 目 次

序 文

例 言

日 次

挿 図 日 次

図 版 目 次

I . 調査に至る経緯と経過.....	10
II . 遺跡の位置と概況.....	10
1 . 遺跡の位置.....	10
2 . 周辺の遺跡.....	10
III . 調査の方法.....	16
IV . 調査区の概要.....	16
V . 遺物の概要.....	40
VI . ま と め.....	51
お わ り に.....	51
引用・参考文献.....	51

## 挿 図 目 次

第1図 石堂B遺跡と周辺の遺跡.....	11
第2図 石堂B遺跡付近地形図.....	12
第3図 石堂B遺跡調査区域図.....	13
第4図 石堂B遺跡遺構配置及び調査区域図.....	14~15

## 図版目次

- |                       |                         |
|-----------------------|-------------------------|
| 第1図 石棺状遺構群航空写真        | 第35図 第23号石棺状遺構検出状況      |
| 第2図 石室B遺跡航空写真(北側上空より) | 第36図 第17号石棺状遺構検出状況      |
| 第3図 石室B遺跡遠景写真         | 第37図 第18号石棺状遺構検出状況      |
| 第4図 第1段目調査区(西側より)     | 第38図 第1号敷石遺構検出状況        |
| 第5図 第1段日調査区(北側より)     | 第39図 第1号石列遺構検出状況        |
| 第6図 第1段目丸石・石棒出土状況     | 第40図 第5号祭壇状遺構検出状況       |
| 第7図 第2段日調査区(北側より)     | 第41図 第12号祭壇状遺構検出状況      |
| 第8図 第2段目調査区(南側より)     | 第42図 第24号石棺状遺構に伴う石棒出土状況 |
| 第9図 第2段目調査区(東側より)     | 第43図 第1段目石棒出土状況         |
| 第10図 第3段目調査区(西側より)    | 第44図 第1段目石棒・石柱出土状況      |
| 第11図 第3段日調査区(北側より)    | 第45図 第1段日石棒拡大写真         |
| 第12図 第3段目調査区(東側より)    | 第46図 第3号住居内特殊遺構         |
| 第13図 第4段日調査区(東側より)    | 第47図 第6号祭壇状遺構に伴う石棒出土状況  |
| 第14図 第1号敷石住居址         | 第48図 完形土偶表・裏写真          |
| 第15図 第4号石圓い住居址        | 第49図 山土遺物(石棒)           |
| 第16図 第3号石圓い住居址        | 第50図 出土遺物(土偶)           |
| 第17図 第3号石圓い住居址内炉完掘状況  | 第51図 出土遺物(土偶)           |
| 第18図 第7号敷石住居址         | 第52図 深鉢出土状況             |
| 第19図 第11号敷石住居址        | 第53図 浅鉢出土状況             |
| 第20図 第9号住居址内炉検山状況     | 第54図 出土遺物(長頸壺)          |
| 第21図 第9号住居址内炉完掘状況     | 第55図 出土遺物(注口土器)         |
| 第22図 第1・2号石棺状遺構検山状況   | 第56図 出土遺物(深鉢)           |
| 第23図 第8号石棺状遺構検出状況     | 第57図 出土遺物(翡翠・土製装飾品)     |
| 第24図 第21号石棺状遺構検出状況    | 第58図 出土遺物(大型打製石斧)       |
| 第25図 第21号石棺状遺構完掘状況    | 第59図 出土遺物(短冊・撥型打製石斧)    |
| 第26図 第15・20号石棺状遺構検出状況 | 第60図 出土遺物(凹石)           |
| 第27図 第20号石棺状遺構完掘状況    | 第61図 山土遺物(磨石)           |
| 第28図 第15・20号石棺状遺構完掘状況 | 第62図 出土遺物(磨製石斧・石錐)      |
| 第29図 第15号石棺状遺構完掘状況    | 第63図 出土遺物(延石・軽石)        |
| 第30図 第12号石棺状遺構完掘状況    | 第64図 出土遺物(石錐・石鐵)        |
| 第31図 第14号石棺状遺構完掘状況    | 第65図 出土遺物(耳飾り)          |
| 第32図 第22号石棺状遺構検出状況    | 第66図 出土遺物(大型耳飾り)        |
| 第33図 第22号石棺状遺構完掘状況    | 第67図 出土遺物(耳飾り)          |
| 第34図 第25号石棺状遺構検出状況    |                         |

## I. 調査に至る経緯と経過

昭和60年度に調査を実施した石堂遺跡において、予想外の遺構及び遺物が検出され、調査が長期化し、季節的にも厳冬期に入り、調査を中止せざるを得なくなり、県文化課・県農務部・県企画管理局の三者で協議を行い、遺跡の重要性等から、工事計画を変更し、埋土する範囲を当初より広く、厚くして、工事を実施し、耕作を可能としながらも、遺跡は埋設保存することとし、昭和60年度の調査を終了した。

埋設保存するにあたり、全面的に埋設すると計画高が高くなり、周辺の水田との調整が難かしくなるため、最小限の調査を行って、計画高を低くする必要性ができたため、掘削する部分を昭和61年度に再度調査を行うこととし、これを石堂B遺跡の第二次調査とした。

調査区域は4ヶ所に分かれ、約900m<sup>2</sup>の調査を昭和61年5月15日から同年9月30日までの約5ヵ月間行った。

## II. 遺跡の位置と概況

### 1. 遺跡の位置

石堂B遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町東井出 678番地他に所在する。

当遺跡は、八ヶ岳南麓の標高約900mの緩斜面に立地し、大泉村との町境付近、県道長沢・小淵沢線より北へ約250m離れた地点で、すぐ東に比高約10mのヤセ尾根が南北に継貫し、ここから約200m離れた西にも南北に延びる台地が平行し、これらの尾根にはさまれ、南北方向に開けたテラス状のゆるやかな斜面に立地している。

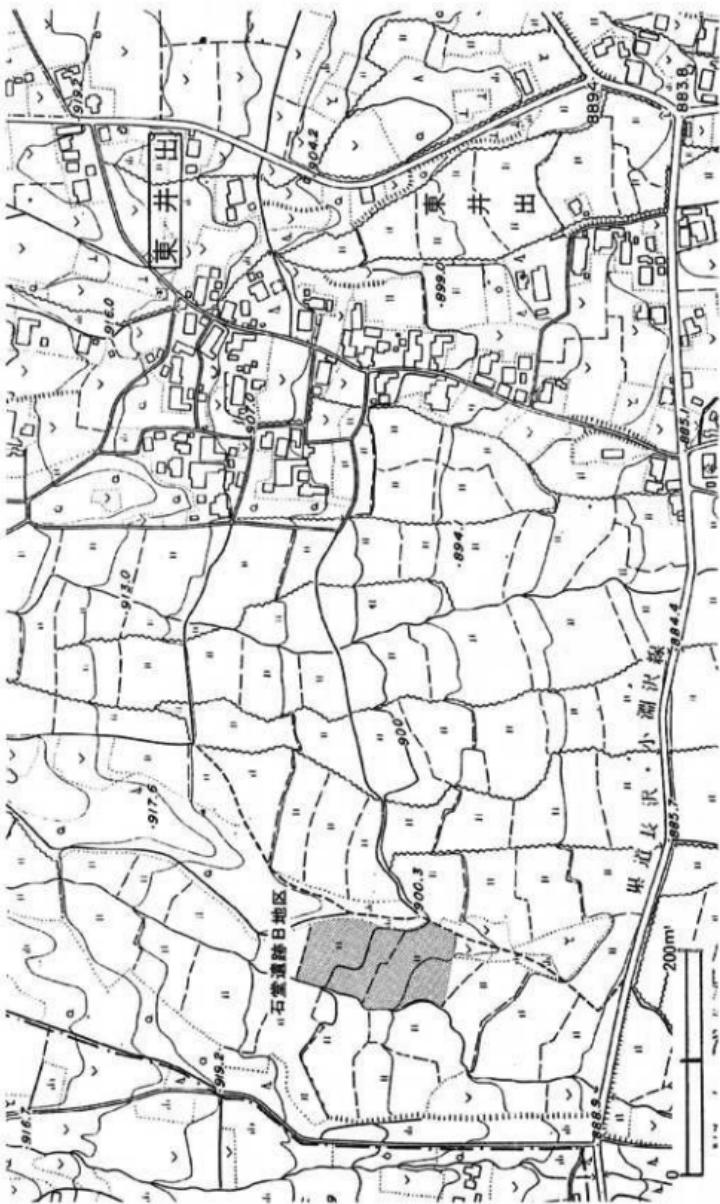
八ヶ岳南麓の基本的な土層は、八ヶ岳火碎泥流などの上に火山扇状地性堆積物の弘法坂疋層が広がり、その上に下部ローム層、白色粘土層、御岳第1軽石層、上部ローム層の順に堆積しており、当遺跡においてはこの上に氾濫による疊層、黒色土層となり、旧水田造成時による埋土、耕作土となっている。この黒色土層は、平均で約1.2mほど堆積しており、この土層中に遺構が形成され、ほぼ全域から遺物が出土している。

### 2. 周辺の遺跡

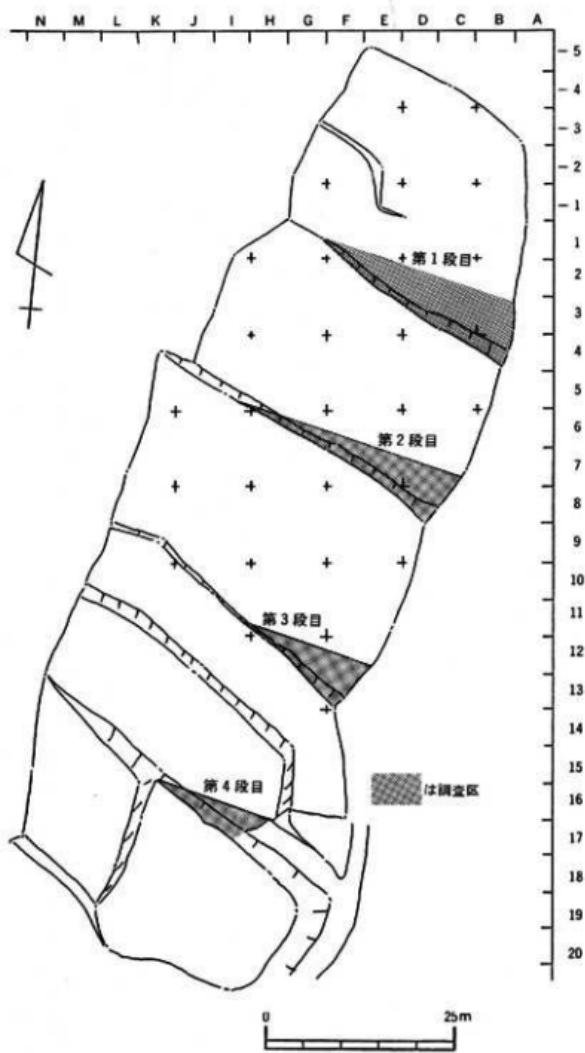
八ヶ岳の山梨県側は、南斜面になり日当り、降水量とも多く、豊かな自然環境に恵まれている。周辺にも非常に多くの遺跡があり遺跡としては、泉・上手原、祖利川・中原、屋敷附、新林・石塔取、仲林、石堂C、野添、菅の神、上の原A、天神・上の租利、山の神・常盤、常盤A、Bの14ヶ所が知られており、中心となる時代は、縄文中期・平安・中世などである。



第1図 石堂B遺跡と周辺の遺跡



第2図 石堂B遺跡付近地形図 (1/5000)



第3図 石堂B遺跡調査区域図



第4圖 石堂B遺跡 遺構配置及U形牆長範圍

### III. 調査の方法

遺跡内全体に疎が散乱しているため、氾濫原と遺構との区別が難しく、簡単に取り除くことができないため、石の間の黒色土層を除々に掘り下げ、遺物・疎の状況を見ながら、遺構の確認を行なった。なお、遺構の掘り込み面は、疎が散乱し、黒色土層に変化が認められず、検出出来なかった。

### IV. 調査区の概要

上部遺構の調査において住居址8軒、大型・小型集石遺構4基、祭壇状遺構9基、石棺状遺構14基、階段状遺構1基、土壙18基の計54遺構が確認されていたが、各調査区の下部及び拡張調査において、各遺構に若干の変更がある。

#### 第1段目（写真図版4・5・6）

ここからは第1次調査において住居址3軒・石棺状遺構8基・大型集石遺構1基・小型集石遺構1基・土壙などが検出されているが、これらのうち調査対象となる遺構は住居址2軒・大型・小型集石遺構などである。

人型集石遺構1基からは階段状遺構1基・石棺状遺構1基が第一次調査において検出されていたが、第二次調査において、石棺状遺構が11基検出され、階段状遺構も調査の決果、蓋石が完全に残っている石棺状遺構であることが判明した。

#### 第2段目（写真図版7・8・9）

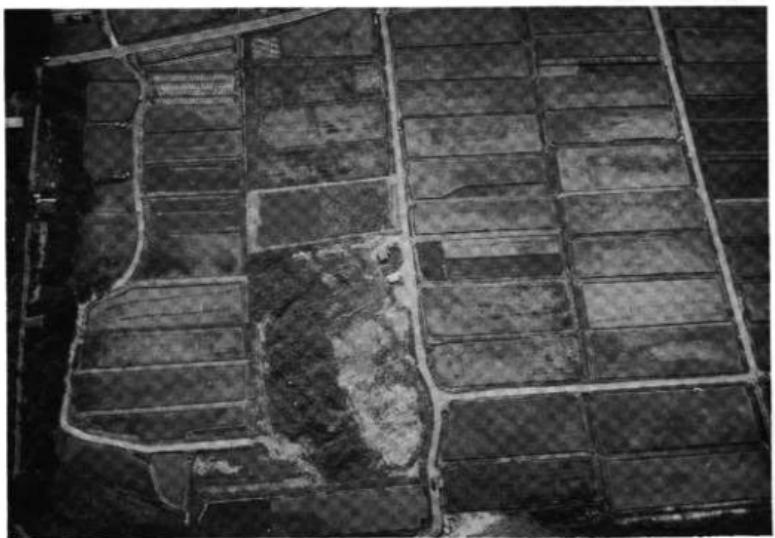
第一次調査においてこの付近からは敷石遺構1基が検出されているだけであったが、掘り下げて調査を行ったところ敷石住居址1軒・石棺状遺構1基・祭壇状遺構3基・土壙6基のはかに、大型方形環状遺構の基礎と思われる大きな石が出土している。

#### 第3段目（写真図版10・11・12）

この地区で第一次調査により、検出された遺構は第14号石棺状遺構のみであったが、その後の精査により、石の配列状況などから、石開い住居址1軒と掘り下げ調査によって石棺状遺構1基・土壙2基が検出され、第2段目と同様に大型方形環状遺構の基礎と思われる大きな石が出土している。

#### 第4段目（写真図版13）

この地区は第一次調査では未調査区であったが、今回の調査により検出された遺構は、形態不明で炉だけで検出された住居址1軒・祭壇状遺構1基である。



第2図 石堂B遺跡航空写真（北側上空より）



第3図 石堂B遺跡遠景写真



第4図 第1段目調査区（西側より）



第5図 第1段目調査区（北側より）



第6図 第1段目丸石、石棒出土状況



第7図 第2段目調査区（北側より）



第8図 第2段目調査区（南側より）



第9図 第2段目調査区（東側より）



第10図 第3段目調査区（西側より）



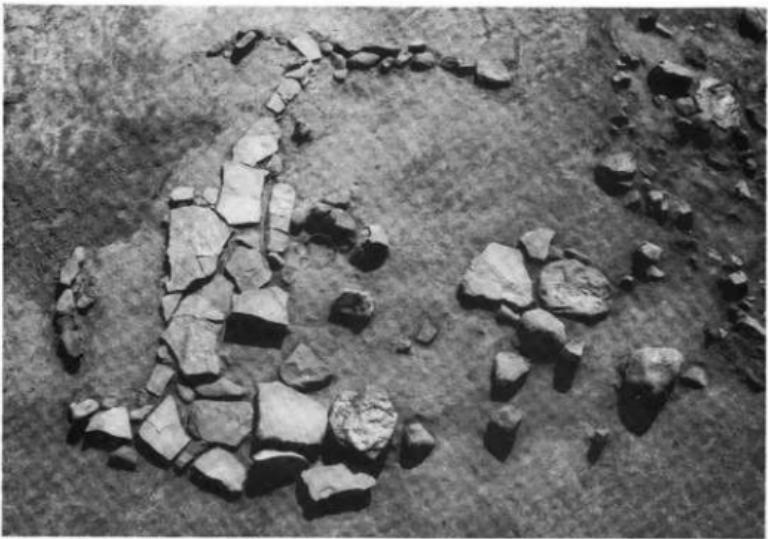
第11図 第3段目調査区（北側より）



第12図 第3段目調査区（東側より）



第13図 第4段目調査区（東側より）



第14図 第1号敷石住居址



第15図 第4号石囲い住居址



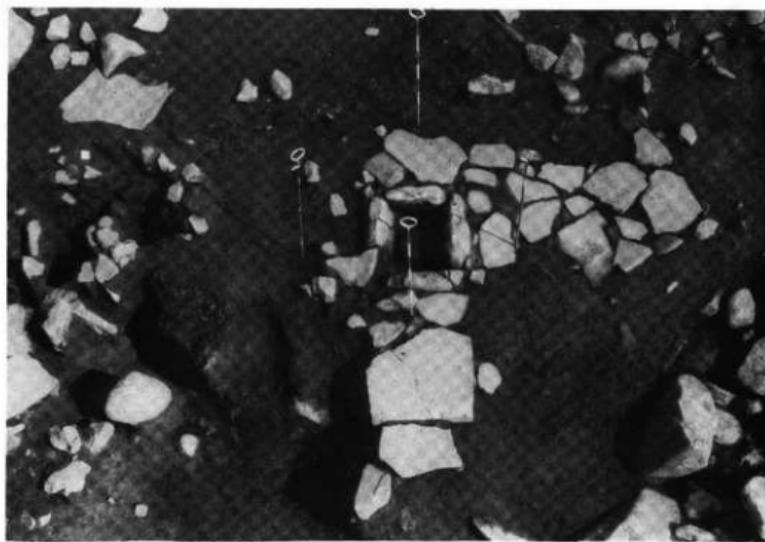
第16図 第3号石圓い住居址



第17図 第3号石圓い住居址内炉完掘状況



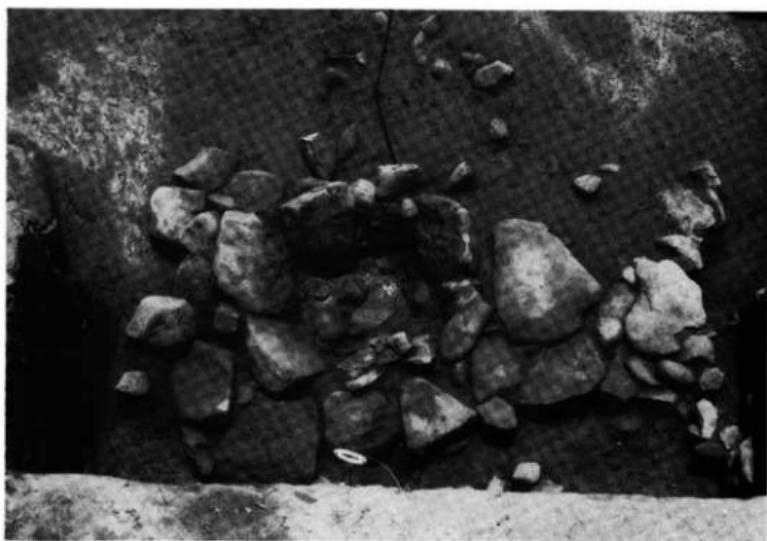
第18図 第7号敷石住居址



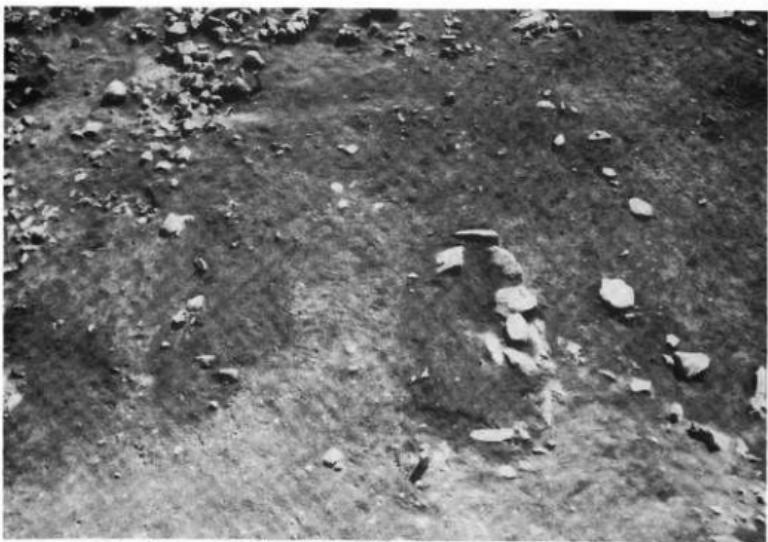
第19図 第11号敷石住居址



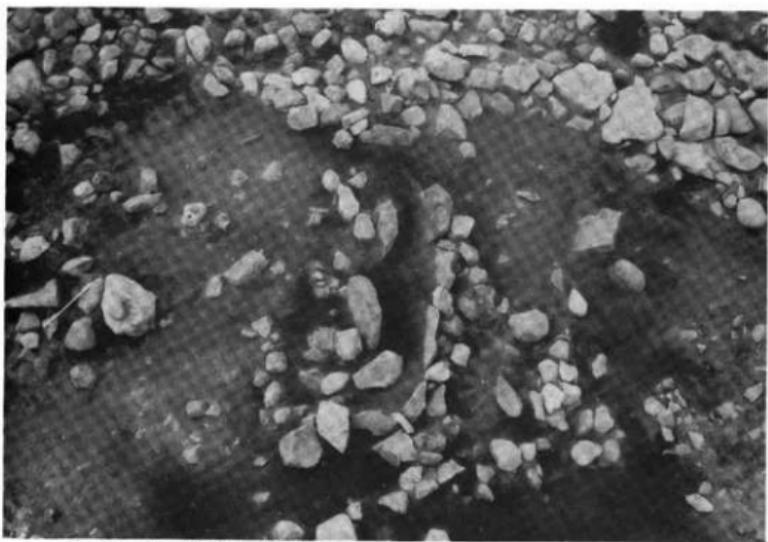
第20図 第9号住居址内炉検出状況



第21図 第9号住居址内炉完掘状況



第22図 第1、2号石棺状遺構検出状況



第23図 第8号石棺状遺構検出状況



第24図 第21号石棺状遺構検出状況



第25図 第21号石棺状遺構完掘状況



第26図 第15、20号石棺状遺構検出状況



第27図 第20号石棺状遺構完掘状況



第28図 第15、20号石棺状遺構完掘状況



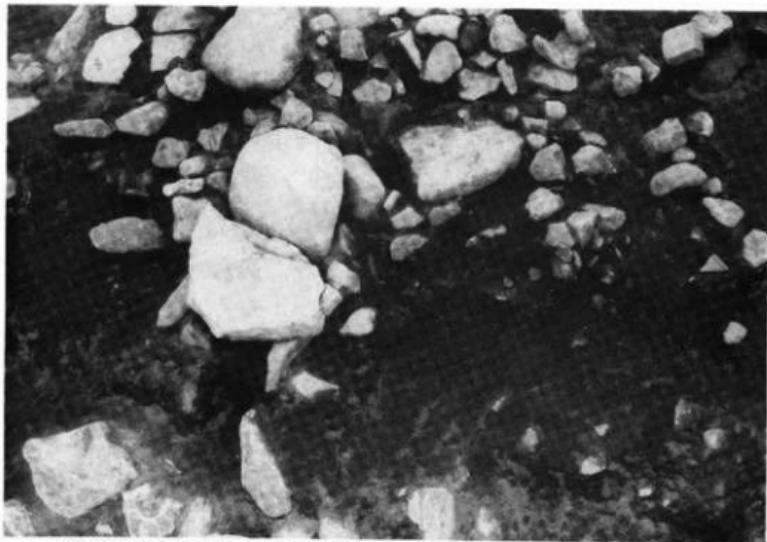
第29図 第15号石棺状遺構完掘状況



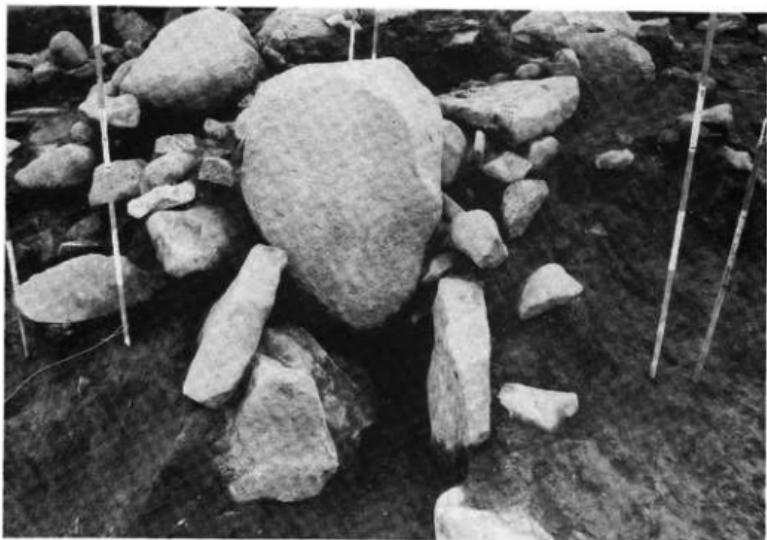
第30図 第12号石棺状遺構完掘状況



第31図 第14号石棺状遺構完掘状況



第32図 第22号石棺状遺構検出状況



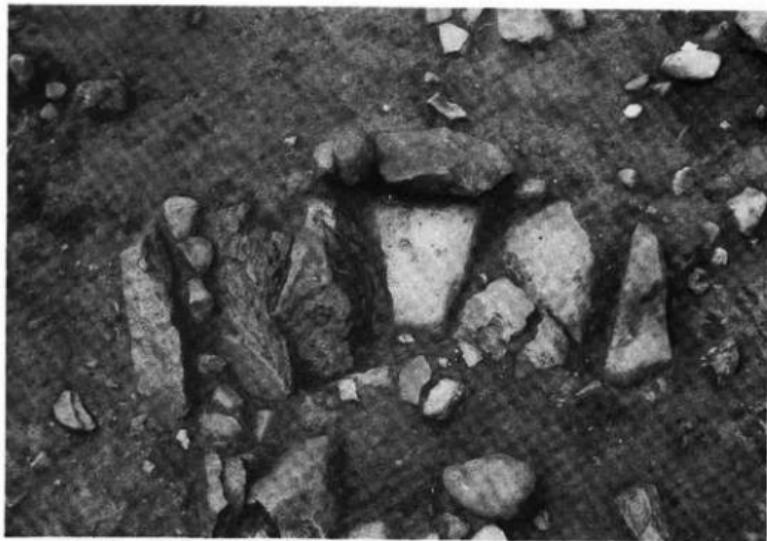
第33図 第22号石棺状遺構完掘状況



第34図 第25号石棺状遺構検出状況



第35図 第23号石棺状遺構検出状況



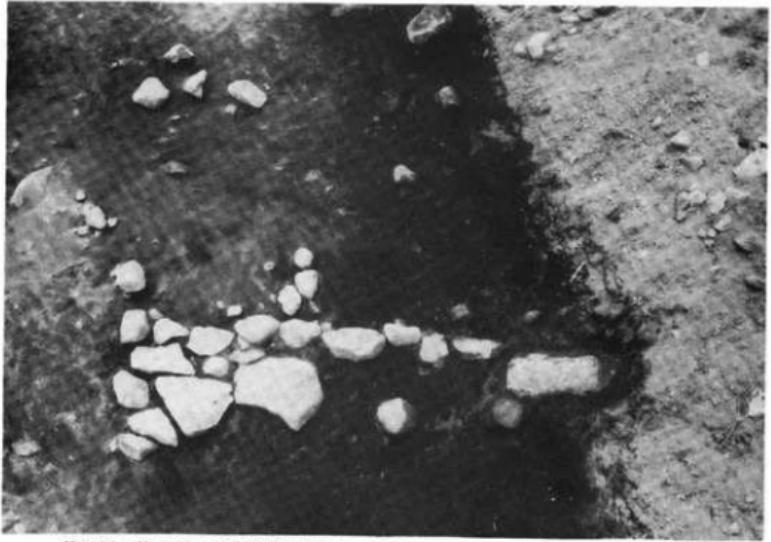
第36図 第17号石棺状遺構検出状況



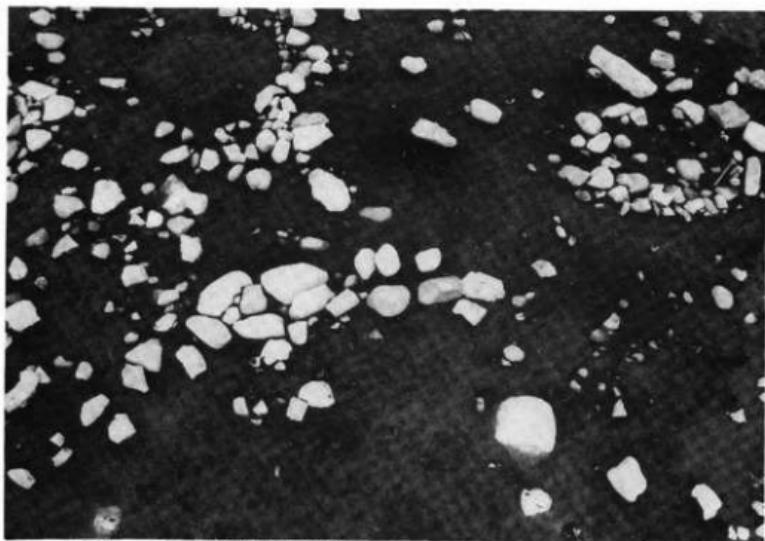
第37図 第18号石棺状遺構検出状況



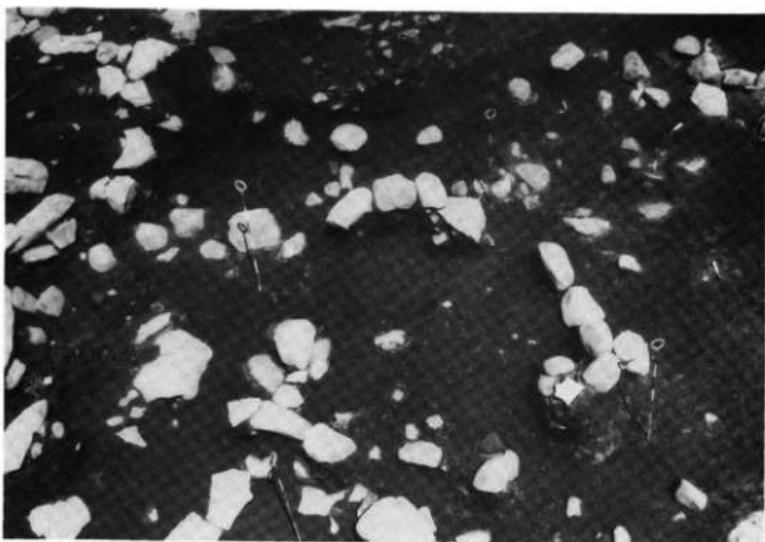
第38図 第1号数石遺構検出状況



第39図 第1号石列遺構検出状況



第40図 第5号祭桿状遺構検出状況



第41図 第12号祭桿状遺構検出状況



第42図 第24号石棺状遺構に伴う石棒出土状況



第43図 第1段目石棒出土状況



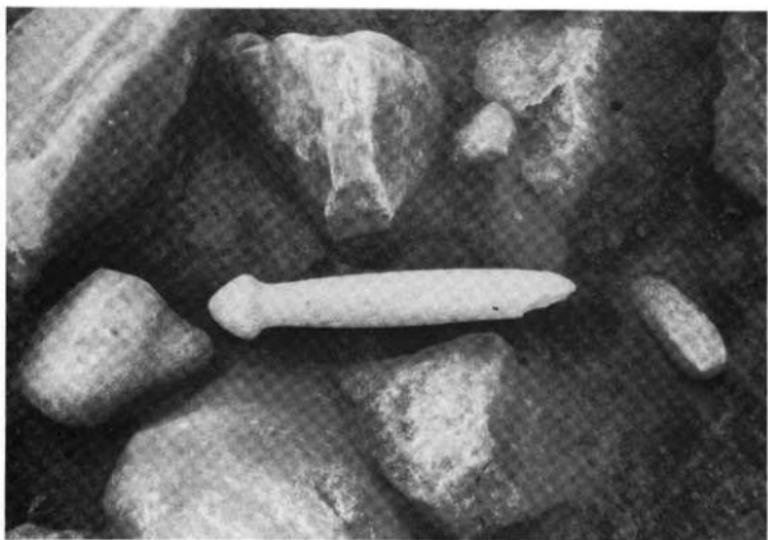
第44図 第1段目石棒、石柱出土状況



第45図 第1段目石棒拡大写真



第46図 第3号住居内特殊遺構



第47図 第6号祭祀状遺構に伴う石棒出土状況

## V. 遺 物 の 概 要

第一・二次調査によって出土した遺物は、耳飾り 320点・土偶40数点・石棒（大・小型を含めて）40数本、翡翠製装飾品12点などであり、その他多量の土器片・石器・焼骨片がある。

耳飾りは遺跡内より普遍的に出土するが、特に大型集石遺構の覆土中より集中して見られるが、ここから土偶は1点も出土しておらず、出土するのは第2段目付近に集中して見られた。

発掘調査において、遺物の出土量が膨大であり、整理の途中のため以上の数値に変更が生じる場合もありうる。

第1段日の主体となる遺構は、大型集石遺構であり、それに伴う遺物は石棒・丸石・耳飾りなどがあり、ここからは土偶は1点も出土していない。住居址は3軒検出されているが、第4号住居址からは、耳飾りが集中して出土し、翡翠製装飾品が4点出土している。

第4号住居址は石囲い住居址であるが、北側の右列の外側より、ほぼ完形土偶（図版48）1点出土し、住居址に伴うかは不明である。

大型集石遺構中から出土した石棒は5本あり、最大のものは長さ約1m、最大部の直径約30cmの石錐型をしている。この他に花崗岩製の石棒があり、祭祀に使用されたらしく、火熱を受けており、赤色化しボロボロに風化して出土した。丸石は2個出土し、1個は石棒と組み合せられていた可能性があり、1個は第21号石棺状遺構の東側に半蔵された状況で出土している。

第2段目においては、第3号住居址より翡翠製装飾品が1点・耳飾り30数点・小型石棒を伴う特殊遺構（図版46）が検出されている。この遺構は小型石棒1本・磨石5点・打製石斧1点・耳飾り2点などで構成されていた。

第11号住居址付近より、打製石斧4点が折り重なって出土しており、黒色土層中より土偶の破片が数点出土している。

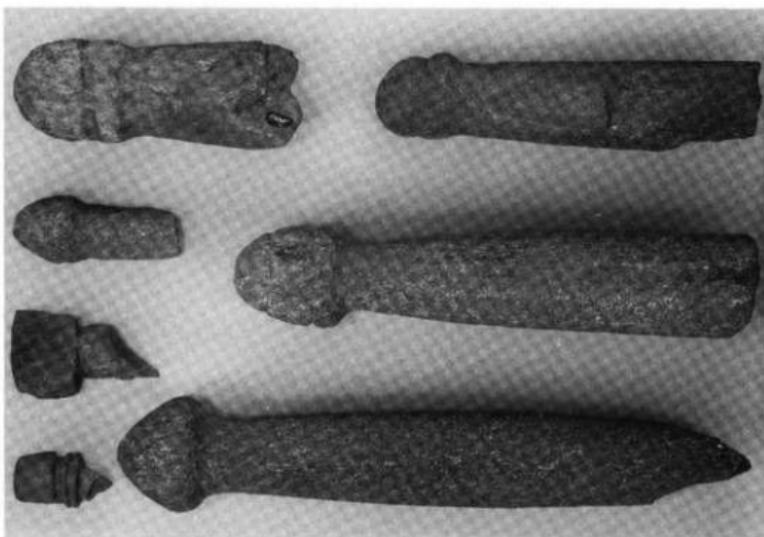
第3段目においては、第2号土壙付近より翡翠製装飾品が1点出土している。この段の主体となる遺構は、大型方型環状遺構であるが、この下部遺構は未調査であり、具体的には不明であるが、上部遺構中に蜂巢石・丸石・石皿・小型石棒などが出土している。

第4段目において確認された遺構は、住居址と祭壇状遺構の2遺構であった。これに伴う遺物は、祭壇状遺構より小型石棒1本などであり、耳飾りも極少数出土しているが、比較的遺物の出土量が少ない所であった。

以上のように出土した遺物の他に完形で出土した土器は、わずか5個体であり、時期は中期後葉（図版52）、後期前葉（図版53）、後期中葉（図版54・55・56）などがあげられるが、出土した土器片は細片化し、接合しても極小数と思われる。この他には、遺構検出面、遺構内のいたる所から焼骨片が出土し、土器同様細片化している。



第48図 完形土偶表・裏写真



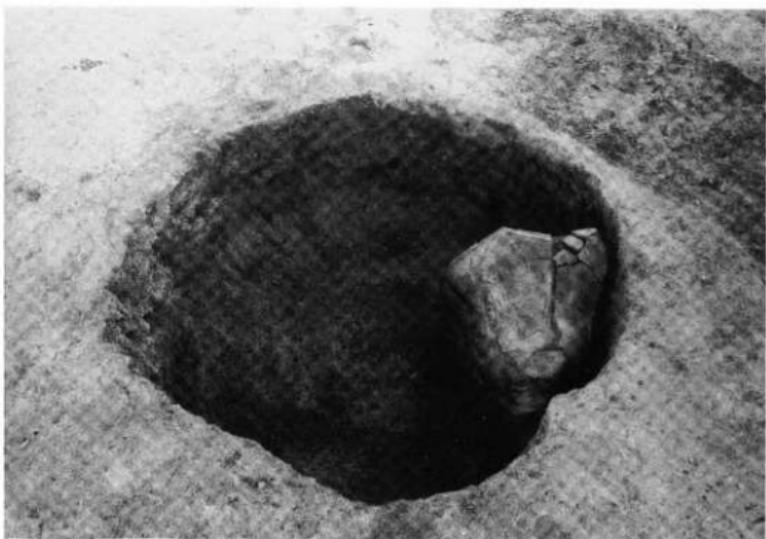
第49図 出土遺物（石棒）



第50図 出土遺物（土偶）



第51図 出土遺物（土偶）



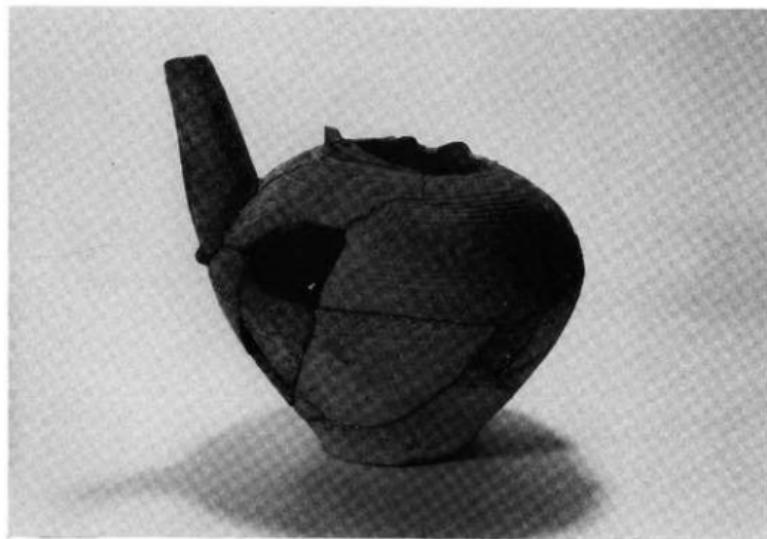
第52図 深鉢出土状況



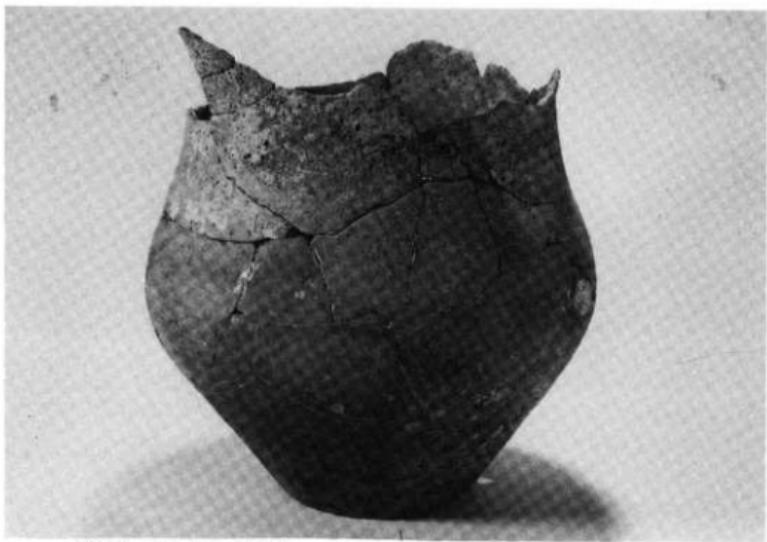
第53図 浅鉢出土状況



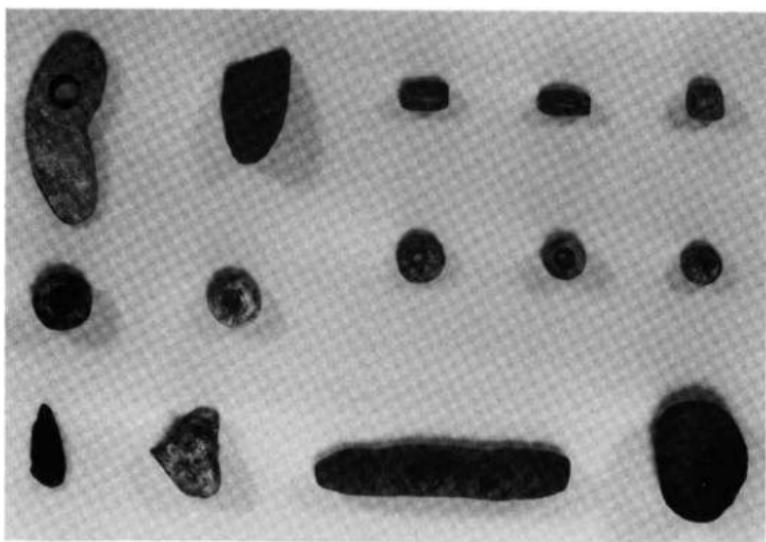
第54図 出土遺物（長頸壺）



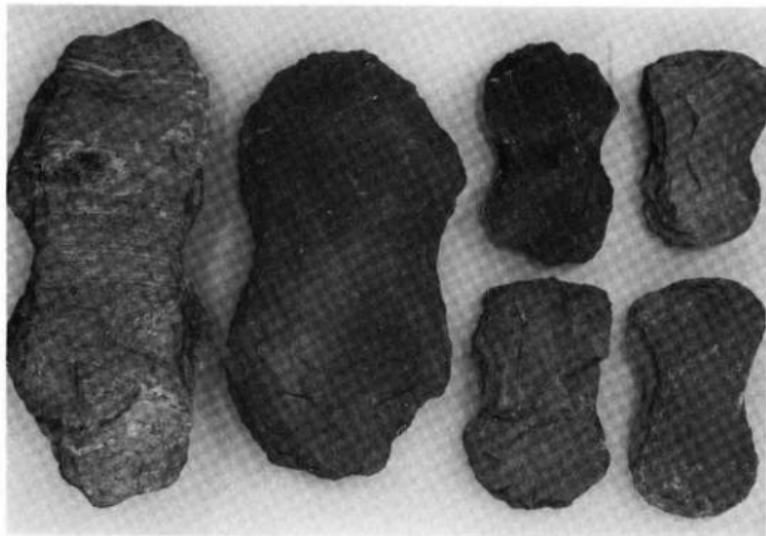
第55図 出土遺物（注口土器）



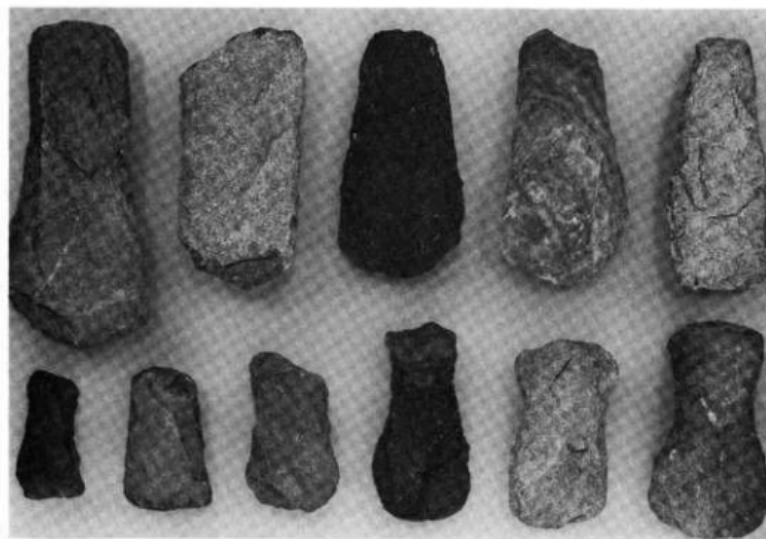
第56図 出土遺物（深鉢）



第57図 出土遺物（翡翠、土製装飾品）



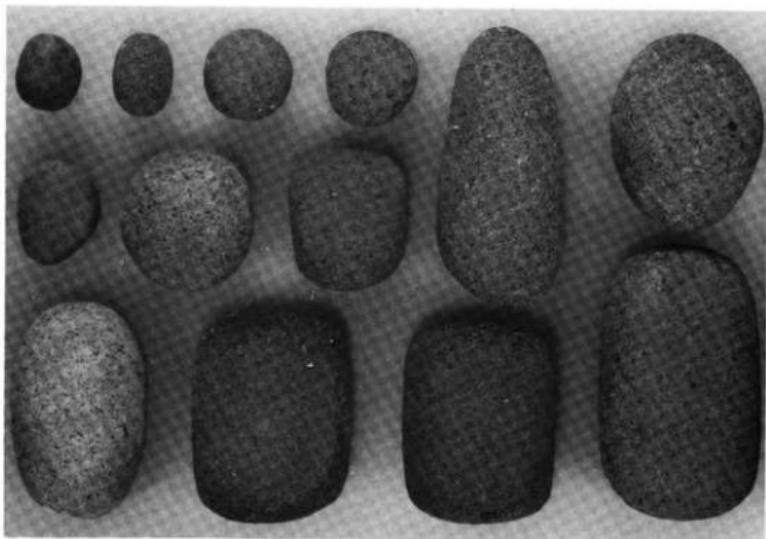
第58図 出土遺物（大型打製石斧）



第59図 出土遺物（短冊・撥型打製石斧）



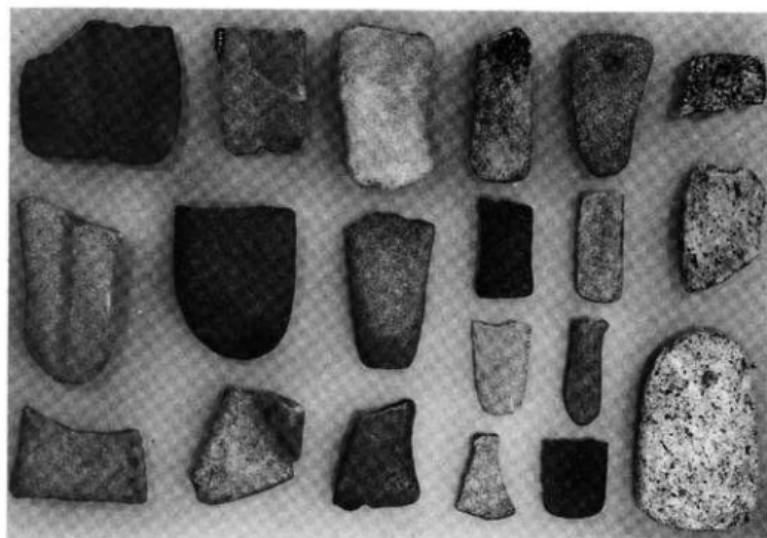
第60図 出土遺物（圓石）



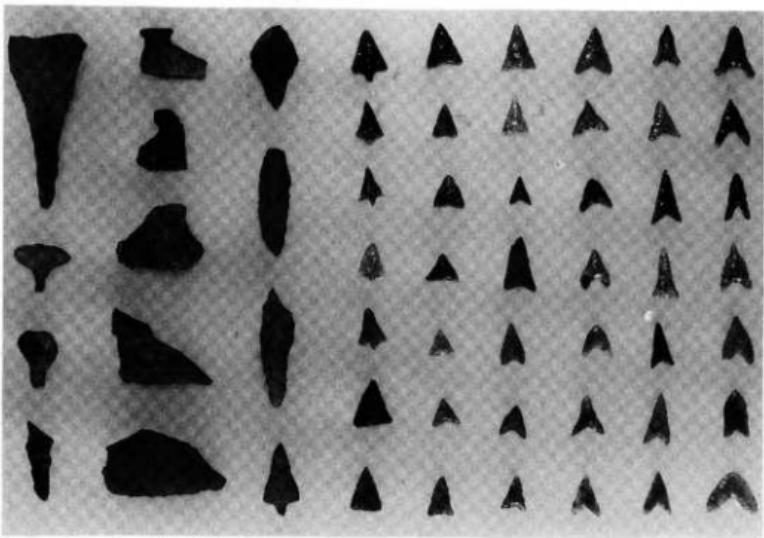
第61図 出土遺物（磨石）



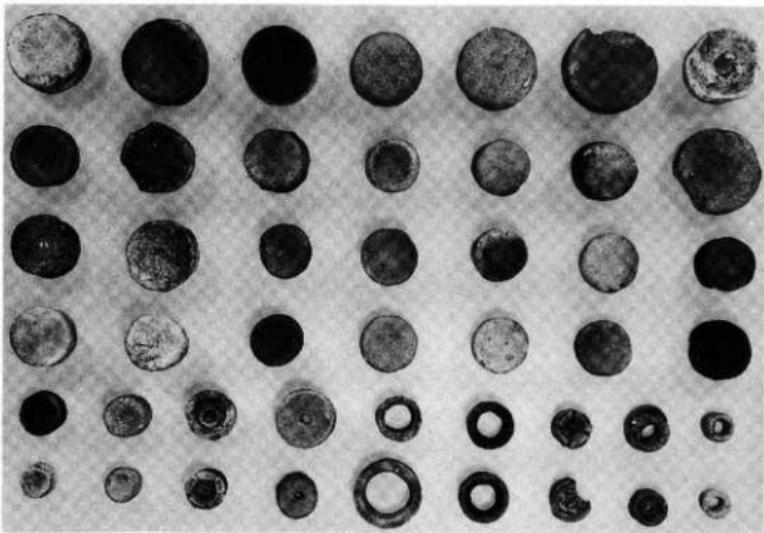
第62図 出土遺物（磨製石斧、石錐）



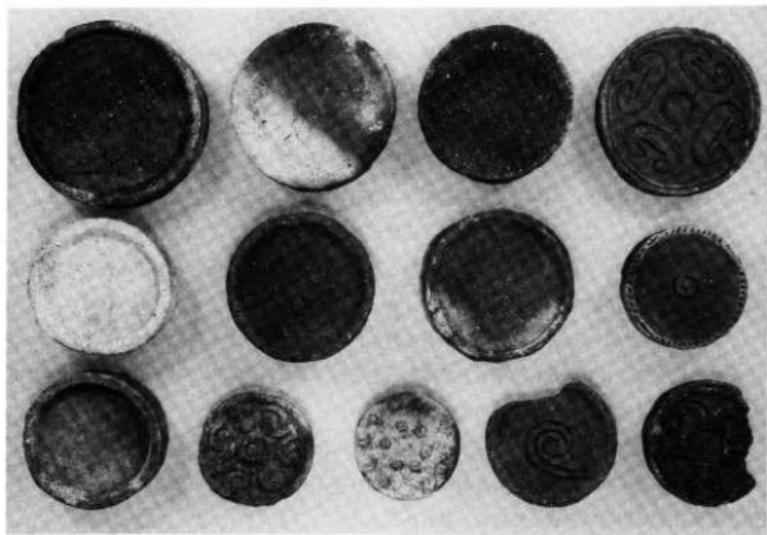
第63図 出土遺物（砥石、軽石）



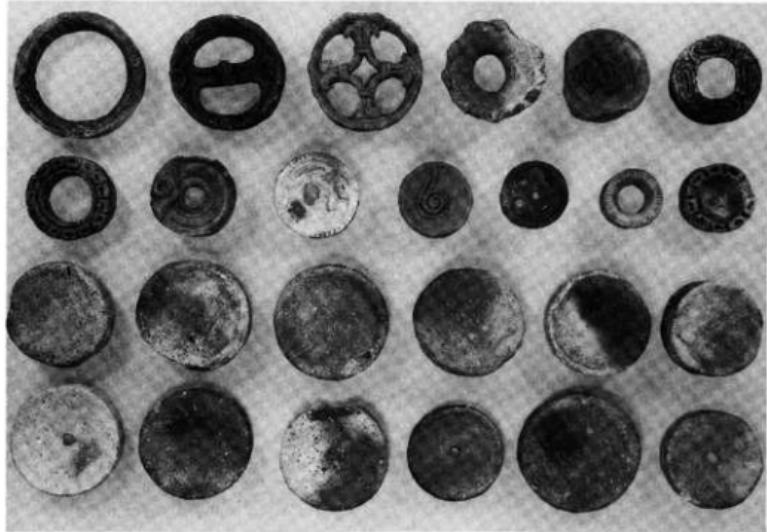
第64図 出土遺物（石錐、石鏃）



第65図 出土遺物（耳飾り）



第66図 出土遺物（大型耳飾り）



第67図 出土遺物（耳飾り）

## VI. ま と め

第一・二次調査によって検出された遺構・遺物について若干の考察をし、まとめとしたい。検出された遺構は、大・小型集石造構・大型方形環状造構・石棺状造構・祭壇状造構・住居址などがある。

大型集石造構の上部造構は出土する遺物等から祭壇的な意味合いがあると思われ、掘り下げた下部造構の調査から、石棺状造構が5基検出され、その周辺からは13基検出されている。

以上のことによって、この遺構は石棺状造構が基礎的に作られ、その後石を積み重ねられて現状のようになったと思われ、その付属施設として石棒を立てて、丸石とを組み合せて祭壇状造構とした意味合が非常に強いと思われる。

小型集石造構の上部造構は、人頭大の石を無造作に積んでいるように思われ、1辺約2mの方形の造構を構成している。しかし、下部の調査を行っておらず不明であるが、大型集石造構同様に石棺状造構を包蔵している可能性がある。

大型方形環状造構は未調査の部分が多く、調査によって確認された造構は、住居址3軒・石棺状造構4基・敷石造構1基などが検出されており、平面的に確認したのみであるため、石棺状造構はまだ相当数包蔵していると思われる。

これらのことにより、当遺跡は縄文時代後期における、墓葬群あるいは祭祀の場という意味合が非常に強く、当時の精神生活の場とも考えられ、今後の類例の増加を待つて検討したい。

## お わ り に

石堂B遺跡は昭和60年9月から昭和61年9月まで調査を行った。真夏の強い日ざしの中、真冬の身も切れるような八ヶ岳おろしの中での発掘調査は、言葉や活字にいい表わすことのできない大変な毎日であった。しかしこのような状況の中で、無事調査が終了できたのは、作業員の方々の協力によるものである。最後に県文化課・山梨県埋蔵文化財センターをはじめ、御協力・御支援を頂いた県北土地改良事務所、地元の方々、関係諸機関に対し、文末ながら記して感謝いたします。

## 引用・参考文献

雄山閣『縄文文化の研究』 第8・9巻

神奈川県教育委員会 「下北原遺跡 神奈川県埋蔵文化財調査報告 14」 1977

高山純・佐々木博昭編 「曾屋吹上 配石造構発掘調査報告書 図録編」 1975

大泉村教育委員会 「金生遺跡」 1981

高根町埋蔵文化財 第5集

昭和62年3月25日 印刷

昭和62年3月31日 発行

## 石堂B遺跡

発掘調査概報（第二次）

発行所 高根町教育委員会

印刷所 島北印刷株式会社

